

日本初開催

特集

# スペレオオリンピック

## 最強のスペレオジストは誰だ？

小林 日 (KOBAYASHI, Ayumi 日本洞窟学会洞窟救助委員会所属 東京都在住)

### はじめに

2010年9月19日、洞窟学会第36回大会の2日目にスペレオオリンピックは開催されました。思い起こせば2010年の年頭に洞窟救助委員会関東支部の活動として関東ケイバーの交流を深めるためのイベントとして考えたのが発端でした。救助委員会関東支部としては、関東地域の救助体制を考えるにあたっては日頃からの交流、まず顔を合わせる機会を作ることが大事だと考えていたからです。

救助委員会に関東支部の活動として提案したところ、学会大会も同じ時期に行ってそれぞれの動員力をかけ合わせたほうが良いのでは？という後藤学会長のご意見もあり学会大会2日目のイベントとなったのです。

### スペレオオリンピックとは

スペレオオリンピックという言葉からおおよそのイメージはつくと思いますが、スペレオロジー（洞窟学）・洞窟探検技術についての知識や技能を競い合うイベントです。

海外ではUISなどの学会大会や各地方組織などのイベントでよくこういったゲームが楽しまれているようで、見てきた人たちの間では「いつか日本でもやりたいね。」と話されていました。SRTでの昇降やトラバースなどロープを張り巡らせたコースを屋外に設置したり、狭洞を模した障害物を通過したりする時間を競うものなどがよく見られます。国際会議のお楽しみとして行われるときには各国からの参加者がその場限りのチームを組んで競技に参加し交流を深めるのに役立っています。とは言っても決まった競技が存在するわけでもなく、国際スペレオオリンピック委員会なども存在はしない（はずです）ので、今回の開催にあたっては準備スタッフの皆さんに自由に競技を作り上げてもらいました。

### 開催にあたり

スペレオオリンピックを開催する上で最も気をつけたことは、誰もが楽しめる（何かしら得意分野で活躍できる）ことと、誰にとっても新しい知見が得られることの2つです。洞窟学会に集う人たちの多くは洞窟学研究者あるいはいわゆるケイバーです。極めて学際的なこの集団で競技を楽しむために、なるべく分野を異にする人、年齢や経験値の異なる人が混ざるようにチームを組んで競ってもらうことにしました。

### ■競技プログラム■

場所や予算の制約がある中、スタッフの皆さんの知恵と体力を最大に駆使してこのような競技が用意されました。

#### I 部門 洞窟探検・救助に関する技術を競います。

- ・洞窟用担架 (NEST) 搬送リレー
- ・サバイバルポイント作成
- ・測量

#### II 部門 各分野の知識を問います。

- ・ケイビング・探検技術
- ・火山洞窟
- ・洞窟生物
- ・地形・地質
- ・洞窟一般知識

#### III 部門 洞窟探検の動きを競います。

- ・総合リレー：

匍匐前進や、チロリアンブリッジ通過、狭洞等に見立てたコースをチーム内で役割分担をしてリレーでタイムを競います。